

「川辺川の流水型ダムに関する環境影響評価準備レポート」に関する公述文

山江村 秋丸貴敏

私は、5000ページもある環境影響評価準備レポートはあまりにも膨大で読めませんでした。環境影響評価レポートのあらましを読んでの意見を述べます。

私は、流水型であってもダムは環境に取り返しのつかない悪影響を及ぼすと思います。ダム本体の高さは107,5m、総貯水容量1億3000m³と他に例のない巨大なコンクリートの塊です。川辺川流域には貴重な生き物が生息しています。クマタカ、カワセミ、ヤマセミなど、この巨大なダムを作る工事中あるいはできたあと、これらの鳥類が生息、繁殖ができなくなり、川辺川流域にいなくなる可能性が非常に高くなるのではないかと心配です。

また、穴あきダムでトンネルの長さが100mもあるということですが、この中を球磨川、川辺川のあゆなどの魚が遡上するなど考えられません。洪水でダムにためた濁水を流せば長期間にわたり、濁ったままで、コケをえさにしているあゆに多大な影響があると思います。

鮎目当てで人吉に来られる観光客もおられます。観光にも影響があると思います。また、洪水の時に穴の中に流木や土砂がつまったり、長い間にだんだん堆積したりしたら、大変です。

川辺川ダムのような巨大な流水型ダムの実例は聞いたことがありません。この環境影響評価準備レポートはあまりにも環境への影響を軽微にかんがえていると思います。自然豊かな人吉球磨を壊さないで、ダムにたよらない治水を考えてほしい。孫子の代まで私たちは責任があります。ダムを作ってしまったばかりかえしが見つからないことになりかねません。もっと時間を掛けて、住民の意見を充分聞いてほしいと思います。